

広げよう公務員への道

全国点字試験実態調査と視覚障害公務員
10人の事例集（平成5年度版）

谷 合 侑 著
盲学生情報センター 監修

盲学生情報センター図書出版

発刊にあたって

今回も前回同様、「社会福祉事業研究開発基金」から高額の助成をいただき、雇用シリーズとして本書をまとめることができました。本来このような資料は、関係方面にお手数をかけることになってしまいますが、毎年作成し、関係者にご覧いただくことによって、視覚障害者の雇用に対する理解と支援の輪が広がり、職域の拡大につながるものと思います。

センターでは、平成2年度に引き続き、平成4年度にも、47都道府県と12政令都市の自治体と教育委員会に対し、「点字並びに低視力者に対する試験の実施状況と、今後の計画について」というアンケートを行いました。前回同様、100%のご協力をいただきました。そして、これまで同様、集計・分析・まとめの作業を、谷谷侑さんにお願いました。また、今回、自治体関係者などからの要望も強くあって、地方公務員として働いている視覚障害者10人を選び、その人の生き様、上司や同僚の配慮、職場環境などについての「事例」も掲載しました。取材と写真撮影は谷谷侑さんにお引き受けいただきましたが、この取材に快く対応して下さった10人の方を始め、関係者など、ご協力くださったすべての皆さまに対し、重ねてお礼を申し上げる次第です。

この企画が関係者の高い評価と十分な役割を果たし得たとすれば、前述しました皆さまのご支援があつての賜物です。本当にありがとうございました。

会発足以来、30有余年が経過しました。振り返って考えてみますと、大きく分けて3つの節目があつたように私は思います。

前半は、全国に散っていて同じ思いをもっている仲間たちの結集と信頼、連帯意識を図るための会の強力な基盤作りであり、中盤は大学の門戸開放を中心とした取り組み、そして後半は、大学入学後の学習条件整備と、職域の拡大を中心とした取り組みで、これは現在も、いや、ここ当分エネルギーを費やしていかなければならない問題だと私は思っています。もちろん、当事者である視覚障害者の実力・体力・気力などが問題解決の糸口ではありますが、周辺地域の皆さまをは

じめ、関係者の理解とバックアップがなければ、いわゆる政官財を動かすことはできないと思います。

そして、何よりも大事なことは、私たち一日の先輩としての義務感です。

私事で恐縮ですが、戦後まもなく「盲人＝三療」という盲学校教育と社会の先入観に反発し、若気の至りで「二兎追うものは一兎も得ず」として、三療の免許を返上しました。

その後、荒波にもまれながら、私なりに模索して、盲学校時代の同級生に遅れること13年という回り道をして、昭和35年、待望の毎日新聞大阪本社の「点字毎日」に入社しました。世界で唯一つの「点字毎日」で、盲人ジャーナリストとして活躍したいという夢がかなえられたわけです。北海道の小さな農村に生まれた私が、当時としてはだいそれた夢と希望を抱き、それを結実させてくださったのは、申すまでもなく先輩諸氏です。その頃は、守る会とか支援する会といった類のものはありませんでしたが、周辺の皆さんのご理解とお力添えの賜物です。

それから26年半、私としては思う存分に働くことができました。編集委員を最後に定年退職し、その後は夫婦して大阪の我が家と子供たち（2人）と別れ、東京で仮り住まいをしながら、つきつめれば私の「道楽」を続けております。これすべて「理解」と「支援」なくしてできることはありません。

今なお感謝の毎日であると共に、これだけ多くの皆さまのお力添えをいただきながら、若い人たちの夢と希望をはぐくむ学習環境と雇用環境がベターな形で定着させられない私の微力とふがいなさを嘆いている次第です。

この原稿を書いている時、テレビから聞こえてきました、若ノ花関の「一意専心」という声と言葉。今の私にそっくりあてはまることだと思い、決意を新たにしております。今後とも、皆さまのご期待に反しないよう努力してまいりますので、一層のご支援とご協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、発想と労力を提供してくださった皆さまの「善意」に重ねてお礼を申し上げ、筆を置きます。

1993年7月21日深夜

盲学生情報センター所長 高橋 実

目 次

発刊にあたって

視覚障害者の公務員採用選考についての調査／結果の報告	5
視覚障害者の教員採用選考試験についての調査／結果の報告	31
調査用紙	44
公務員採用の点字試験および雇用の20年のあゆみ	61
参考資料	71
公務員への道を切り開き活躍している人々	73
第1章 県庁・府庁で一般事務職として働く人々	
1 神奈川県庁の岡崎学さん	74
2 神奈川県庁の石津明夫さん	78
3 京都府庁の仁科豪士さん	84
第2章 公立図書館の司書・事務職員として働く人々	
1 名古屋市鶴舞中央図書館の大塚強さん	89
2 大阪市立早川福社会館の綾塚潤一さん	95
3 川崎市盲人図書館の伊藤慶昭さん	100
第3章 福祉指導職として働く人々	
1 東村山ナーシングホームの後藤桃子さん	106
2 東京都女性相談センターの込山光広さん	112
第4章 普通中学校・高等学校で教壇に立つ先生たち	
1 箕面市立第2中学校の高田剛先生	119
2 大阪府立白菊高等学校の有本圭希先生	125
表1 10人が職場で使用しているOA機器	132
表2 10人のヒューマンアシスタント	133
参考資料 「なごや会」運営に関する申し合わせ	134

座談会 提言 ― 広げよう公務員への道	137
出席者／谷合侑・菅原良成・吉泉豊晴・高橋実	
募金ならびに書き損じハガキのお礼と今後のご協力をお願い	149
視覚障害者支援情報センター事業概要	151
著者略歴	152

視覚障害者の
公務員採用選考についての調査
—— 結果の報告 ——

集計と分析／谷合 侑

【調査目的】

全国の地方自治体において、視覚障害者(点字使用者および弱視者)の公務員採用選考が、実施されているかどうか、実施されているとすれば、どのような内容で、どのような方法がとられているのかについて、[一] 一般公務員試験について、[二] 身体障害者に対する特別枠採用試験について、[三] 人事委員会の権限の範囲で行われるその他の採用試験について、の三項目に分けて調査を実施した。

今回の目的は、1991年の国家公務員試験において、国は初めて点字受験を認め、視覚障害者の国家公務員への道が開かれたが、この国の方針が全国の地方自治体に波及し、この分野における選考および雇用が、さらに拡大されることを期待して、実施されたものである。

今回の調査は、前回(1991年2月)に実施されたものよりも、調査内容を充実させ、回答しやすいように調査項目を大幅に増やして実施した。

【調査年月】

1992年12月。

【調査対象および回答数】

1都1道2府43県12市、計59地方自治体に対して調査用紙が配布された。回答率は100%であった。

【調査結果】

調査結果を調査項目別に報告すると、以下の通りである。

【一】 一般公務員試験について

問1. 1992年に身体障害者に対する一般公務員試験を実施したか。

【回答の集計結果】

(1)実施したのは、1都1道2府12県9市、計25自治体であった。9市を除いた16都道府県は、全都道府県の34%にあたる。

(2)実施内容別にみると

視覚障害者の公務員採用選考

(ア)初・中・上級職すべてについて実施したのは、1道8県5市の計14自治体であった。自治体名を記すと、北海道・神奈川・山梨・和歌山・高知・佐賀・岐阜・三重・鹿児島・札幌市・大阪市・神戸市・広島市・千葉市。

(イ)初・上級職で実施したのは、2府3県2市の計7自治体であった。自治体名を記すと、大阪府・京都府・埼玉・奈良・滋賀・横浜市・川崎市。

(ウ)中・上級職で実施したのは、東京都のみであった。

(エ)初級職のみで実施したのは、北九州市のみであった。

(オ)上級職のみで実施したのは、熊本・京都市の2自治体であった。

(3)実施開始年をみると

1953(S28)－埼玉・山梨・大阪市

1972(S47)－千葉市

1973(S48)－東京都(ただし一般事務はH3より)

1982(S57)－和歌山

1989(H1)－滋賀

1990(H2)－高知

1992(H4)－北海道

問2. 1992年の「身体障害者」の中に「視覚障害者」は含まれているか。

【回答の集計結果】

(1)含まれているのは、前記25自治体のうち、1都1道2府9県8市の計21自治体であった。8市を除いた13都道府県は、全都道府県の28%にあたる。

身体障害者に対する試験を実施しているが、視覚障害者が含まれていないのは、山梨・三重・鹿児島・川崎市の3県1市であった。ただし、山梨と川崎市は、特別枠採用試験において視覚障害者を含めている。

(2)実施内容別にみると

(ア)初・中・上級職で実施したのは、1道4県5市の計10自治体。

(イ)初・上級職で実施したのは、1府3県1市の計5自治体。

(ウ)中・上級職で実施したのは、1都。

調 査

(エ)初級職のみで実施したのは、1市。

(オ)上級職のみで実施したのは、1府2県1市の計4自治体。

(3)前記の自治体名を記すと、次の通りである。

(ア)北海道・神奈川・高知・佐賀・岐阜・札幌市・大阪市・神戸市・広島市・千葉市(ただし、大阪市は学歴別試験)

(イ)大阪府・埼玉・奈良・滋賀・横浜市

(ウ)東京都

(エ)北九州市

(オ)京都府・和歌山・熊本・京都市

(4)実施開始年をみると

1953－埼玉・山梨・大阪市

1972－千葉市

1973－東京都(ただし一般事務はH3より)

1980－神奈川

1982－和歌山

1989－滋賀

1990－高知

1991－大阪府(ただし大卒程度はH3より)

1992－北海道

【付記、「試験案内」について】

今回の調査に際して、「一般職員採用試験案内」を6自治体に求めたところ、送付されてきた。いずれの自治体も点字受験を認めているところであるが、試験案内の中にどのように記述されているかをみると、次の通りである。(点字試験の箇所のみ抜粋)

東京都－「平成4年度 東京都職員Ⅰ類・Ⅱ類採用試験案内の概要」

- 1 試験区分と採用予定者数 (2)東京都一般職員Ⅰ類の福祉指導Cは、1名です。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

[著者略歴]

谷合 侑（たにあい すすむ）

- 1932(昭和7)年 東京都八王子市に生まれる
1957(昭和32)年 東京教育大学教育学部卒業
同年 東京教育大学(現筑波大学)付属盲学校教諭
17年間、同校で盲教育に従事
1974(昭和49)年 東京都小平福祉園(盲精神薄弱者施設)・指導課
1979(昭和54)年 東京都心身障害者福祉センター・視覚障害科
1989(平成元)年 東京都八王子福祉園・訓練指導科
1992(平成3)年 東京都定年退職
18年間、東京都において視覚障害者福祉に従事
1977 および 1990 年 筑波大学心身障害学系非常勤講師

[主な著書]

- 『視覚障害者労働白書』 1985年版 1985年1月
『視覚障害者労働白書』 1987年増補版 1987年3月
『盲人ガイドのキーポイントガイドヘルパーのための15章』 1985年6月
『視覚障害者(児)の教育・職業・福祉—その歴史と現状』 1989年3月
『視覚障害者と大学 シリーズ1—門戸開放40年の歩み』 1990年12月
『視覚障害者と大学 シリーズ2—学習条件整備を求めて』 1990年12月
『視覚障害者と大学 シリーズ3—点字による国家公務員試験が実現するまで』 1991年9月
「30年にわたる活動の展開」『日本盲人福祉研究会(文月会)30年のあゆみ』 1992年3月
——以上、日本盲人福祉研究会発行
『チャレンジする盲人の歴史』 1989年3月 (榎こずえ
「中途失明者のリハビリテーション」 『からだの科学』 138号 1988年1月 日本評論社
「失明糖尿病患者の自己管理と生活指導」 『臨床成人病』 1990年7月 東京医学社
「盲人関係施設の変遷」 『創立40周年記念誌』 日本盲人社会福祉施設協議会 1993年6月

●出版助成●社会福祉法人 社会福祉事業研究開発基金

●出版助成●社会福祉法人 社会福祉事業研究開発基金

広げよう公務員への道

—全国点字試験実態調査と視覚障害公務員10人の事例集(平成5年度版)

1993年8月31日発行

実費頒価1,500 円(送料 310円)

著者 谷 合 侑

監修 盲学生情報センター

〒166 東京都杉並区成田東5丁目36番15号

電話 03-3220-1421(代)

FAX 03-5397-7003

郵便振替口座 東京4-159472

コロニー印刷